

## 自然体験活動ボランティア養成研修

①令和3年6月19日(土)～20日(日)

②令和3年7月18日(日)

【担当：園部 翔、葛島 隆文、和泉 志帆、稲原 諒馬】



### 1. 事業の背景

青少年が地域や施設でのボランティア活動を通じて、多くの方に出会い、広く社会を学び、自分自身の発見や成長につながる貴重な体験となることに違いありません。独立行政法人国立青少年教育振興機構国立諫早青少年自然の家(以下、機構という。)では、社会で活躍できるボランティア(青少年)に成長してくれることを期待し、法人ボランティア制度を設け、子供たちの体験活動を支援する機会を提供しています。

法人ボランティアとして活動しようとする青少年に対して、円滑に教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助を行えるよう、青少年教育の知識や技術を取得し、ボランティア活動への参加意欲を高めることを目的に、毎年ボランティア養成研修事業を実施しています。

今年度は、令和3年6月19日(土)～20日(日)1泊2日のみを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染者拡大により、実施1週間前に県内大学の約20名からキャンセルを受けたこととともに、別日程を設けることができないかとの依頼を受けた。

これを受け、7月18日(日)の日帰り研修およびオンデマンド講義の受講により、対応することとしました。

### 2. 事業の趣旨

青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める一助とします。

### 3. 事業の実施

#### (1) 対象

高校生以上、一般 30名

#### (2) 期日

①令和3年6月19日(土)～20日(日) 1泊2日

②令和3年7月18日(日)、オンデマンド講義、レポート作成

#### (3) 参加費

①2,300円 ②550円

#### (4) 参加者数 延べ44名

①参加者合計 19名(内訳：高校生5名、大学生9名、社会人5名)

②参加者合計 25名(内訳：高校生4名、大学生19名、社会人2名)

## (5) プログラム

①

1 日目	2 日目
10:00 受付、開講式	7:00 朝食（レストラン）
10:30 <u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！①</u> （ボランティア活動の技術 60分）	8:20 <u>【説明】登録などはどうしたらいいの？</u> （青少年教育施設における ボランティア活動② 30分）
11:30 昼食（持参）・休憩	9:00 <u>【講義】なんで自然体験が大事なの？</u> （青少年教育 90分）
12:15 <u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！②</u> （ボランティア活動の技術 180分）	10:40 <u>【講義】諫早自然の家ってなに？</u> （青少年教育施設の現状と運営 60分）
15:25 <u>【講義・実習】応急手当を知ろう①</u> （自然体験活動の安全管理① 90分）	12:10 昼食（レストラン）・休憩
17:10 夕食（レストラン）・休憩	13:10 <u>【説明】どうやったら活動に参加できるの？</u> （青少年教育施設における ボランティア活動② 30分）
18:15 <u>【講義・実習】応急手当を知ろう②</u> （自然体験活動の安全管理② 90分）	13:50 <u>【講義】活動時の心構えについて</u> （ボランティア活動の意義 90分）
19:45 <u>【説明】どんなボランティア活動ができるの？</u> （青少年教育施設における ボランティア活動① 60分）	15:15 閉講式
21:00 入浴・就寝	

②

1 日目	オンデマンド講義内容
10:00 受付、開講式	自然体験活動の安全管理
10:15 <u>【講義・実習】アイスブレイク、野外炊事</u> （ボランティア活動の技術 255分） 昼食（野外炊事）	青少年教育の理解 青少年教育施設の現状と運営 青少年教育施設におけるボランティア活動②
14:30 <u>【説明】どんなボランティア活動ができるの？</u> （青少年教育施設における ボランティア活動① 60分）	ボランティア活動の意義
15:45 閉講式	

## (6) 講師

① Waku Waku あそBE隊 代表 薄井 良文 氏 安全管理

①②国立諫早青少年自然の家  
企画指導専門職付 園部 翔 その他 講義・実習・説明

## 4. 企画・運営の留意事項

### (1) 企画時の留意事項

#### ①大学、高等学校と学生の参加に関する確認

今般の新型コロナウイルス感染症感染防止対策により活動制限を大学がとっているため、近隣大学、参加希望があった高等学校と学生の参加についての確認を行ないました。

#### ②プログラム構成

本研修の目的は当所でのボランティア活動に必要な知識・技術を伝えることであるが、自然体験活動やボランティア活動の経験が少ない参加者がいることを前提とし、自然体験活動の素晴らしさを全員で体感し、その共同体験を活用しながら必要な知識を伝えられるよう構成しました。

#### ③広報の工夫

チラシを作成し、対象者がいる場所に足を運んで行う足で稼ぐ広報に加え、動画を活用して活動の様子が具体的なイメージができるよう広報を行いました。

また、当日上映する動画の作成や広報は、先輩ボランティアが中心となって実施しました。

### (2) 運営時の留意事項

#### ①参加者同士での学び合い

子供たちのキャンプと同様、講師や自然の家職員から一方的に学ぶのではなく、共に参加している人同士で学び会えるように、ふりかえりの機会を多く設定しました。

#### ②先輩ボランティア（ロールモデル）を配置

当所で活動を行なっている先輩ボランティアが運営ボランティアを行うことで、参加者が具体的なイメージを持てるようにしました。また、自然体験活動を一緒に行うことで活動中に多くの話ができるようにしたり、講義の中でこれまでのボランティア活動を通して自身の成長につながっていることなどを話す機会を設けたりしました。

#### ③多くの職員との関係構築

今後のボランティア活動を円滑に進めるためには、多くの職員との関係構築が重要であると考え、担当以外の職員にも携わってもらえるよう、調整しました。

#### ④研修で学んだことを日常に落とし込む工夫

これまで研修を終えた参加者に「日常でどのように生かせるか」と問うと悩んでしまうことを見かけることがありました。そこで、「日常でどのように生かすか」まで研修中に考え、お互いに共有することでさらに充実した研修となる工夫をしました。

#### ⑤2日間の各講義の関連付け

多くのカリキュラムがある本研修では、参加者が各講義をコマ切れに理解すると学びが浅くなりがちです。これを避けるために、導入時にねらいを明確にすること、各講義

で重要なポイントなどを記したホワイトボードを参加者が見られるように残し、別のカリキュラムでも活用することで、各講義を関連付けたカリキュラムとしました。

## 5. 各講義の進め方

講義科目	講義内容
(1) 「開講式」	本研修のねらい、研修を通して考えること、研修の中での全員のルールを共有しました。
(2) 【講義・実習】 「ボランティア活動の技術①」	開講式で共有したルールを意識づけるために、アイスブレイクを活用しました。 また、実際にボランティアとして活動するキャンプの参加者の心境は、現在の参加者の心境と同じ状況であるため、自身の心の変化にも注目するよう説明しました。
(3) 【講義・実習】 「ボランティア活動の技術②」	自然の家での活動を実際に体験し、その魅力を感じてもらえるように、比較的心理的負荷が大きいオリエンテーリングを選択しました。 また、各チームの支持的風土が醸成されるようオリエンテーリングポスト地点で、チームで協力して行う課題解決ゲームを行ないました。 活動後にはオリエンテーリングを通して感じたことを共有しました。その後、アイスブレイクの扱い方、オリエンテーリングをなぜ序盤に入れたかを説明しました。
(4) 【講義・実習】 「安全管理」	自然体験活動の魅力を感じた参加者に、魅力を感じるためには安全管理が重要なことを伝えました。また、講師に薄井良文氏を招き、事故が起きてしまった時の応急処置や応急搬送方法について、深い学びとなるよう、参加者の実習を中心に進めていただきました。 参加者からは、薄井氏が「応急処置などはいくら学んでも傷病者の原因を正しく把握できなければ役に立たない」と導入時に話されたことが印象に残ったという声が多く聞かれました。
(5) 【説明】 「青少年教育施設におけるボランティア活動①」	このプログラムは、先輩ボランティアが企画・運営しました。先輩ボランティアが、ボランティア活動を通して「感じたこと」「自身の変化」「大変だったこと」などを自由に話しました。
(6) 【説明】 「青少年教育におけるボランティア活動②」	法人ボランティアに登録をすることでできることについて、説明を行ないました。
(7) 【講義】 「青少年教育」	1日目の自身の活動を振り返る中で、体験活動の重要性について当機構の調査研究結果を用いて伝えました。参加者からは「振り返りが重要。他者の意見に触れる中で、自身の考えを見つめ直すことで刺激になる」などの意見が聞かれました。

<p>(8)【講義】 「青少年教育施設の現状と運営」</p>	<p>当機構の概要、長崎県や佐賀県の青少年教育施設について説明する中で『佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう」推進事業』の取り組みを説明しました。</p> <p>また、当日に実施していた「キャンプの日」の運営を実際に観にいき、スタッフの指導方法やプログラム、プログラムを行っている参加者の様子を学びました。</p>
<p>(9)【説明】 「青少年教育施設におけるボランティア活動②」</p>	<p>法人ボランティアの登録方法について、ボランティアサイトマニュアルを用いて説明しました。</p>
<p>(10)【講義】 「ボランティア活動の意義」</p>	<p>法人ボランティア活動時の心構えや法人ボランティアの立ち位置、保護者や参加者からの見られ方、ボランティア活動の意義を伝えました。</p> <p>また、これまで学んだことを通して、ボランティア活動がどのようなものだと考えるか、ふりかえりを行ないました。</p>
<p>(11) 「閉講式」</p>	<p>2日間の研修を通して、気づいたことなどから日常生活でどのように生かせるかを個人で考え、班内、参加者全体でふりかえりを行ないました。</p>

## 6. 評価

### (1) アンケート結果

①満足・・・100%、②やや満足・・・0%、③やや不満・・・0%、④不満・・・0%

### (2) 参加者の声（アンケートから一部抜粋）

- ・1日目体験、2日目講義の構成だったため、自身の体験と照らし合わせながら学べてよかった。
- ・子供の成長や子供の発言や行動を見て、一緒に時間を過ごすことで自分も成長できるようにボランティア活動をしたと思った。
- ・魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えることが重要なことだと学んだ。
- ・発達段階によって介入方法を変えることなど子供のコミュニケーションの取り方について学べてよかった。
- ・多様な人と関わる中でたくさん学べることが分かったので、今後ボランティア活動に参加したい。
- ・人と関わるのが苦手だが、アイスブレイクなどを使った導入を行うことで、仲が深まるスピードが早まることが体験を通して分かった。
- ・人との関わりで相手を「枠」にはめたり、先入観で接し方を変えたりするべきではない理由を学べた。
- ・新しいことに挑戦する大切さを学べた。人の意見や考えにふれ共有することの重要性を感じられたことが刺激になった。人の心の動かし方や最初（導入）の大切さが体感できた。
- ・ボランティアの場での出会いが素敵だと感じられた。短い時間でも色んなことにチャレンジして、自分たちの考えを伝え合いながら協力し合える場所だと感じたため。

- ・一歩前へ（いつもの自分の枠から飛び出てチャレンジすること、2日間の研修の中で大切にすることと開講式でみんなの約束とした）出ることの大切さを体感した。
- ・まずはやってみると多くの学びが待っているように思えた。1泊2日の間で時間も心も充実していて参加してよかった。自分の中の可能性を広げられるような気がした。
- ・もっといろんな人と出会いたいと思った。

## 7. 成果と課題

### (1) 成果

- ① ふりかえりを多く行うことで、上記の参加者のアンケートにも出ているように「想いを共有することで刺激し合える」など多くの研修での学びについて記載がありました。
- ② 広報の工夫を「4企画・運営の留意事項（1）企画時の留意事項③広報の工夫」のとおり行なったことで、55名からの申込をいただきました。

### (2) 課題

当初 55 名からの申し込みがあったが、国内の新型コロナウイルス感染者の激増により、県外の高校生や大学生、申込者が在学する大学の指示による一斉キャンセルなど 24 名からキャンセルを受けました。今後、新型コロナウイルス感染症がどのような影響を及ぼしていくか分からないため、実施時期は検討する必要があると感じました。